

令和元年度短期海外研修

## 外国人介護人材受入れ、地域包括ケア及び障害者スポーツに関する調査

期間：2019年11月16日（土）～23日（土）

訪問先：

オランダ

- AMS Institute
- 健康センター・フォンデルプライン
- 家庭医（ヒューゴ・コストブデ医師）

ドイツ

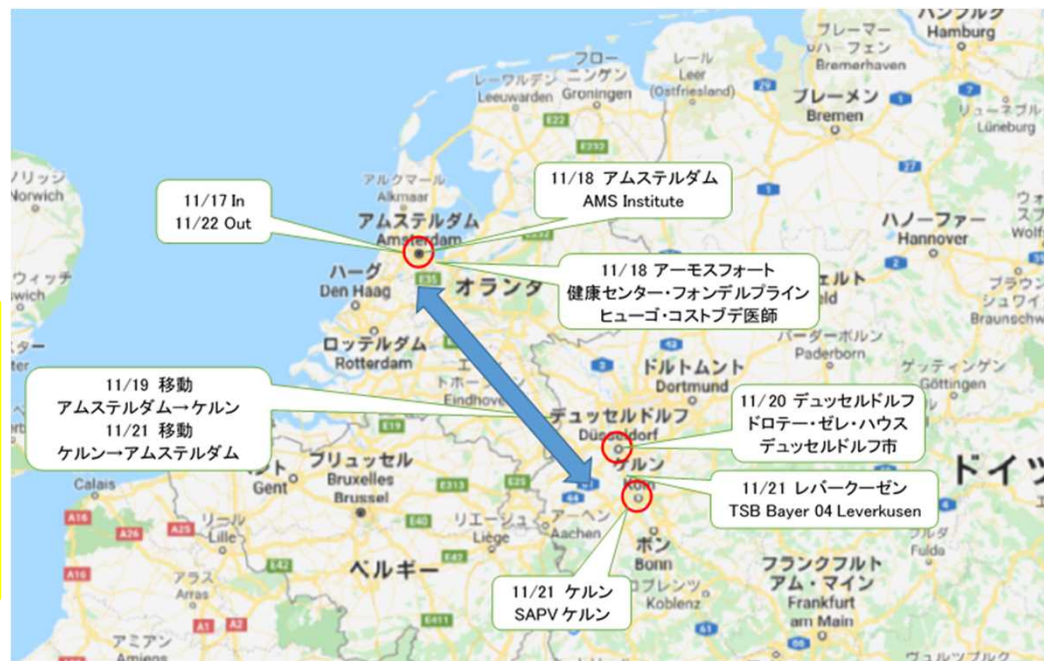
- ディアコニー福祉事業団  
ドロテー・ゼレ・ハウス（竹の会）
- デュッセルドルフ市社会部
- SAPVケルン（在宅緩和ケアチーム）
- TSB Bayer 04 Leverkusen  
（障害者スポーツチーム）

健康福祉部高齢者福祉課  
健康福祉部健康福祉指導課  
健康福祉部健康福祉指導課  
健康福祉部健康福祉政策課  
健康福祉部高齢者福祉課  
健康福祉部障害者福祉推進課  
病院局佐原病院

副課長	山口 秀之
副主幹	薄井 まどか
主事	関川 智也
主事	辻内 裕樹
主事	保坂 健人
主事	牲川 智彦
主任看護師	靱山 泉

### 目的

- オランダで質の高いケア提供体制を学ぶ
- ドイツで外国人介護人材の受け入れ及びその後のサポートを学ぶ
- ドイツで障害のある人が身近な地域でスポーツに参加できる環境を学ぶ



# 調査結果とまとめ

## 地域包括ケアの推進

オランダの医療福祉制度と「リビングラボ」と呼ばれる問題解決のための手法は、地域包括ケアシステムの構築にあたってのヒントとなりうる。

## ドイツにおける介護人材確保の取組

外国人材の定着のためには、受入制度だけではなく、快適に生活できる社会の構築が必要。

## 在宅緩和ケアチームの活動

在宅医療を推進するにあたり重要な、多職種連携のあり方の一つのモデルとなる。

## ドイツにおける障害者スポーツについて

障害のある人が、障害のない人とともに自身にあったスポーツに地域で取り組める環境がある。



オランダのヘルスケア制度について  
レクチャーを受ける



SAPVケルンのヨースト医師



TSB Bayer 04 Leverkusenにて

## 魅力あるまちづくりをめざして

- ・ 高齢者になっても安心して暮らし続けられるまちづくり
- ・ 外国人介護人材が末永く働ける環境づくり
- ・ 障害があってもインクルーシブな環境でスポーツを楽しめるまちづくり